

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	地域密着型としての意味をふまえ、地域との交流に重点を置いた理念を作り上げている。		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念は職員の名札の裏、廊下の見やすい位置に貼っており、常に意識できる様にしており、月1回のミーティングで再確認することで、実践に向け取り組んでいる。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	毎月らいふ便りを家族に配布したり、来訪時にはホームの行事等を伝えている。また、2ヶ月に1回の運営推進会議には毎回家族に参加して頂き、理解して頂ける様伝えている。		
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	朝のゴミ出し時に話をしたり、天気の良い日には近所の家に散歩に出掛け、庭の花を見せて頂いたりして、交流する場を設けている。		今後も継続していきたい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	ホームに近隣の小学生が見学に来たり、月に1回歌の会を開き、ボランティアの歌の先生や大正琴のボランティアさんに来て頂いている。		今後も継続していきたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	運営推進会議等で、地域で役立つ事について話し合っているが、実際に取り組むまでには至っていない。		ホームとして他の事業所と連携し、地域の方々へ向けた勉強会等を開く予定である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は全職員で行い、より良いサービスを提供できる様取り組んでいる。外部評価は結果をミーティングで確認し、改善に取り組んでいる。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議等を2ヶ月に1回行い、ホームでの取り組み利用者様の最近の様子を報告している。また、そこで話し合われた内容について検討し、取り組んでいる。		今後も継続していきたい。
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	研修等に参加する事はあるが、行き来する様な機会は作れていない。		今後、市の窓口に対しても事業所の行事やケアサービスについて折に触れ伝え、交流を図ってきたい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用している利用者様が3名いるので、ミーティングの勉強会や外部の研修等で、より理解を深める必要がある。		ミーティングの勉強会等で、全職員が成年後見制度を理解できる様な機会を作ってきたい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	勉強会や研修等を通し、身体拘束や虐待について学び、防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には時間をとり、丁寧に説明し同意を得るようにしている。		
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様の言葉や態度からその人の思いを理解する努力をし言葉を記録に残し、申し送りやミーティングで共有している。		今後も継続していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>家族来訪時には利用者様の最近の様子を伝えている。又、月に1回らいふ便りを郵送し、行事やホームでの写真を見て頂いている。金銭管理は毎月お小遣い帳のコピーを家族に郵送し、報告している。</p>		
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ホーム内に意見箱を設置し、意見や苦情を聞く機会を設けている。又、家族来訪時に何でも言ってもらえる様な雰囲気作りを心がけている。運営推進会議には毎回家族の方に参加して頂き、意見を反映できる様努めている。</p>		<p>今後、家族会等を設け家族同士のみで意見が出せる様な仕組みも作っていききたい。</p>
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>ミーティング等で職員の意見や要望を聞く様に心がけているが、言い難い部分もあると思うので、把握しきれない可能性がある。</p>		<p>勤務調整を行い、運営推進会議に職員も参加できる様な体制を作っていく。</p>
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>職員の募集はしているが、柔軟に対応出来る余裕を持った人員は確保できていない。</p>		<p>職員が急病等の時にも柔軟に対応できる様、職員確保の為の取り組みをしていきたい。</p>
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>家族や利用者様とのなじみの関係を重視しているが、やむを得ず異動や離職する場合もある。</p>		<p>利用者様とのなじみの関係があるので、職員が代わる時にも引継ぎの時間を十分にとり、配慮したい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部の研修になるべく参加できる様、シフトの調整を行っている。研修後にはミーティングで研修報告をしてもらい、全職員で理解を深めている。		限られた人員の中で、定期的に各職員が段階に応じた研修を受けられる様な環境を作っていくたい。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	地域の他事業所と合同事業体を作り、その中で職員研修や他グループホームへの見学等を計画し、ケアに活かす取り組みをしている。		今後も継続していきたい。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	運営者は来所時に職員の話聞く様努めているが、機会が少ない為職員のストレスや悩みを十分には把握出来ていない可能性がある。		運営者と定期的に話せる機会を設ける。又、職員が利用者様と離れ、一息つける様な休憩所を作る等の配慮をしていきたい。
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	職員の研修や資格取得に向け、シフト調整等の面で配慮しているが、十分ではない。		職員が向上心を持って働けるよう職能評価を行い、研修や資格を職場内で活かせる労働環境を作っていくたい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	事前に御本人・家族と面談し生活状態を把握する様努めている。又、入居前にセンター方式に記入して頂き、御本人の思いを理解できる様取り組んでいる。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居前の面談にて家族の苦労やこれまでの経緯について、ゆっくり聞くようにしている。入居後も来訪時等に不安や希望を聞く機会を設け、信頼関係を作れる様努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時、ご本人や家族の思いを確認し、グループホームだけでなく地域のケアマネジャー等と連携しながら、必要に応じて他のサービス機関へもつなげている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前にご本人・家族にホームを見学して頂き、なるべくご本人が納得された上で入居できる様努めている。		やむを得ず、すぐ入居になった場合でも、ご本人の様子を見て必要に応じ家族に来てもらう等して、安心感を持ってもらう様対応している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者様は人生の先輩であるという考えを職員が認識しており、普段から家事等で教えてもらう場面が多くある。又、そういう場面が多く持てる様、セッティングや声掛けに配慮している。		今後も継続していきたい。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族との情報交換を密に行い、利用者様の様子や職員の思いをきめ細かく伝える事により、ご本人を家族と同じような思いで支援している事を伝えている。		今後も継続していきたい。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人・家族の思いや状況に応じて、外出や外泊で家族と一緒に過ごす事を勧めたり、行事には家族を誘ったりしながら、より良い関係の継続に努めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	知人や友人から手紙が来た際には、返事を書く手伝いをしたり、友人に電話をかけたいと希望された場合には電話をかける手伝いをする等して、継続的な交流が出来る様支援している。		今後、一人ひとりの生活習慣に合わせ、地域に暮らす馴染みの知人・友人の家に遊びに行けるような支援もしていきたい。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	毎日の食事やお茶の時間、レクリエーション等を職員も一緒に過ごし、利用者同士の関係がうまくいく様、職員が調整役となり支援している。又、ユニット間での交流もあり、擬似的な近所付き合いも行われている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	ホーム退所後も入院先にお見舞いに行ったり、家族と連絡をとり継続的な付き合いをさせて頂いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の暮らしの中で声を掛け把握に努めている。意思の疎通が難しい方でも、表情や態度から思いをくみ取る様努め、ミーティング等で共有している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時にプライバシーに配慮しながら、ご本人や家族から聞き取る様にしている。又、センター方式のシートを記入して頂き、これまでの生活の把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	朝・夕に申し送りを行い、各利用者様の生活リズムを把握し共有している。又、その人の出来ることに、より注目しミーティング等で情報交換を行い、その人の全体像の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人や家族から、日々の関わりの中で要望や意見を聴くようにしている。それらをミーティングの個人カンファレンスで話し合い、ケアプランに反映させている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	職員が日頃からご本人や家族からの要望を取り入れつつ、ミーティング等で話し合いケアプランに反映している。又、状態が変化した際には、期間が終了する前でも検討見直しを行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日の利用者様の様子や気づいた事を個人記録に残し、特に本人の言葉・エピソード等を注意して記入している。記録はいつでも全ての職員が確認できるようにファイルしており、ミーティングにて個人記録をもとにケアプランの見直し、評価を行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	天候も考慮しながら、ご本人や家族の要望に応じ外出・散歩等、できるだけ柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	毎月ボランティアの歌の先生に来てもらったり、ご家族による大正琴の演奏会をしてもらったりと協力を頂いている。又、定期的に防災訓練を行い、利用者様が安心して地域での暮らしを続けられる様支援している。		今後も継続していきたい。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者様の希望に応じて、訪問理美容サービスを利用する支援をしている。又、運営者や管理者は地域の他のケアマネジャーや事業者と話を多く設け、情報を交換している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加して下さっており、周辺情報や支援に関する情報交換を行い、協力関係を築いている。		
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	ご本人や家族の希望するかかりつけ医を利用したり、ホームの協力医療機関の往診医に診て頂き、健康管理を行っている。基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な時には管理者や職員が代行する様にしており、利用契約時にその旨説明し同意を得ている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	ホームの往診医が認知症に理解があり、都度相談し助言を頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員を配置しており、常に利用者様の健康管理や状態の変化に応じた対応ができる様支援している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時には、医療機関にご本人の支援に関する情報を提供し、管理者や職員がこまめに見舞う様にしている。又、回復状況をみて家族とも情報交換しながら、退院へ向けた支援を行っている。		今後も継続していきたい。
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	平成21年5月より医療連携加算を取得し、入居時ご本人や家族に、重度化に伴う看取り介護についての説明を十分行い、書面にて同意頂いている。		終末期ケアについて知識が乏しい面があり、外部の研修等に参加して職員全員で共有していきたい。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ミーティング等でホームとして対応出来る支援の方法について話し合っている。又、夜間利用者が急変した場合でも、看護職員や24時間対応の協力医療機関と密に連携をとり対応している。		ご本人や家族の意向、本人にとってどうあったら良いのか等、ホームとして対応しうる最大の支援方法をチーム全体として話し合っていきたい。
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住み替え時には、ご本人や家族と十分に話し合い、これまでの暮らしの継続性が損なわれない様に生活環境や支援の内容等、必要な点について情報提供し連携をはかっている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	ご本人を傷つけない様、介助や誘導の際の声掛けは目立たないようにさりげなく行っている。又、申し送りの際にもご本人や他の利用者様に直接聞こえない様、CDやラジオをかけ配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日常の何気ない会話や表情から、その人の得意な面・不得意な面を読み取り、些細な事でもご本人が決められる様な場面を作っている。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>一人ひとりの体調に配慮しながら買い物や散歩等、希望にそって柔軟に対応している。その人によって生活リズムが異なるので、その人のペースを乱さぬ様見守りながら支援している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>朝の着替えは基本的にご本人の意向で行って頂き、自己決定が難しい利用者様には職員と一緒に考え、ご本人の気持ちにそった支援を心がけている。又、外出が難しい方には月1回の訪問理美容を利用して頂き、希望に合わせたカットやパーマをしてもらえる様連携を取っている。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>一人ひとりの好みや力量を活かしながら、食事の下ごしらえや盛りつけ等を職員と一緒にして頂いている。又、職員と利用者様が同じテーブルを囲んで楽しく食事できる様、雰囲気作りも大切にしている。献立によっては出来るだけ利用者様と協力して行える様ホットプレートを活用し、おやつはおはぎや月見団子等、季節に応じたものも作っている。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>職員は一人ひとりの嗜好物を理解しており、ご本人の様子や時間を見ながら、それらを楽しめる様支援している。又、気分転換も兼ねて、お菓子の好きな利用者様と一緒に近くのスーパーまで買い物に行ったりしている。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>排泄チェック表を使ってその人の排泄パターンを把握し、時間を見て声掛けする事により、失敗が少なくなりトイレで排泄出来る様支援している。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	<p>週に2回の入浴日はあるが、希望があればいつでも入浴できるようにしている。又、レクリエーションも兼ねて近所の銭湯へ行き、入浴を楽しんで頂けるような工夫をしている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、安心して気持 ちよく休息したり眠れるよう支 援している。	日中の個別の疲れ具合に合わせて、昼食後等にゆっくり休息が取れる様支援している。又、夜間寝付けない時には温かい飲み物を提供したり、話をゆっくり聴いたりする様配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、楽 しみごと、気晴らしの支援を している。	食事作りや洗濯物たたみ等、それぞれが得意分野で力を発揮してもらえる様配慮している。又、楽しみとして、職員の特技を活かして大正琴の演奏会やバルーンアートを披露したり、着物を着ての新年会、もちつき、七夕等、季節に合った行事を企画している。		今後も継続していきたい。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	基本的に家族からお金を預かりホームで管理しているが、外出時の買い物の支払い等は、利用者様が自ら支払う事により社会性の維持にもつながるので、お金を手渡す等の工夫をしている。		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず に、一人ひとりのその日の希 望にそって、戸外に出かけら れるよう支援している。	天気やご本人の希望に応じて、日常的に散歩やドライブ等に出かけている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普 段は行けないところに、個別 あるいは他の利用者や家族と ともに出かけられる機会をつ くり、支援している。	昔の街並みを集めた写真展や花火大会・イルミネーション等、夜間の外出も計画し出かけているが、天候不良のせいもあり十分には機会を作れていない。		滝野すずらん公園や温泉等、利用者様が行きたいと思う場所への外出の機会を増やしていきたい。
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが 電話をしたり、手紙のやり取 りができるように支援してい る。	電話は出来るだけ希望に合わせ使える様支援している。又、通話の際は他の利用者様に聞こえない様電話の子機を使用し、少し離れた場所で話して頂く配慮をしている。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の 馴染みの人たちが、いつでも 気軽に訪問でき、居心地よく 過ごせるよう工夫している。	家族や知人・友人の訪問が多く、利用者様の日頃の様子を知って頂ける様ホーム内に写真を掲示し、いつでも見て頂ける様にしている。		
(4)安心と安全を支える支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	外部研修やミーティングの勉強会等で理解を深め、職員の共有認識を図っている。		今後はミーティングや申し送りで、職員が自覚しない身体拘束が行われていないか等を点検していきたい。
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関には鍵をかけず、ドアセンサーが鳴ったら必ず職員が確認する様にしている。又、利用者様が外出しそうな様子を感じたら、さりげなく声を掛けたり一緒に行ったり等、安全面に配慮しながら支援している。		
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中は職員同士が声を掛け合い連携して見守りをしている。記録等も利用者様と同じ空間で行いながら、さりげなく見守る様配慮している。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	全てを管理するのではなく利用者様の状況に応じて、管理が必要な物、利用者様が使う時に注意が必要な物等を分けて、ケースに応じた対応をしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	ミーティング等で一人ひとりの状態から予測される危険を検討し、事故を未然に防げる様努めている。又、日々のヒヤリハットを毎月シートにまとめユニット間で共有し、再発防止に取り組んでいる。		今後も継続していきたい。
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対応マニュアルを作り、周知徹底を図っている。		今後、行政や消防署の協力を得て救急手当や蘇生術の研修を実施し、全ての職員が対応出来る様にしたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防災マニュアルを作成し、年に2回避難訓練を行っている。又、協力体制については運営推進会議で地域住民の方へ協力を呼びかけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族の来訪時に、これから起こり得るリスクについて説明し、ホームとしてそれに合った対応に努めている事を了承して頂いている。		今後も継続していきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日に2回バイタル測定を行い記録する事で、体調の変化を見逃さない様取り組んでいる。又、それ以外でも顔色や食欲、様子の変化があれば経過を観察し、状況に応じて主治医や看護師につなげている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の処方箋をファイルにまとめ、職員が内容を把握出来る様にしている。服薬時には日付・名前を声に出して本人に手渡し、服薬確認まで見守る様にしている。又、自己管理している方もおり、服薬カレンダーを使用し自ら食後に持参され職員が確認している。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	朝に牛乳を提供したり、食事に食物繊維を多く含む食材を使用したりして、なるべく自然排便が出来る様取り組んでいる。又、午前中に体操をして、運動する機会を作っている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、歯磨きの声掛けを行い、一人ひとりの能力に応じて見守りや介助を行っている。又、訪問歯科診療をお願いし、定期的にメンテナンスを行っている利用者様もいる。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取状況を毎日個人記録に残し、職員が情報を共有している。水分量が少ない方にはゼリーにして提供したり、本人の好む飲み物を提供して摂取しやすい様にしている。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてのマニュアルを作成し、予防・対策に努めている。新型インフルエンザについても、厚生労働省からの通達に従いホームでの対応を統一している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>まな板やふきん等は毎日消毒し、清潔を心がけている。又、食材の残りは鮮度や状態を確認し、冷凍したり処分したりしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>玄関前に花を飾ったりプランターを置いたりして、季節感を出す工夫をしている。又、駐車場内にベンチやテーブルを設置しており、近所の人立ち寄りた時にひと息つける様配慮している。</p>		
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>毎月、利用者様と一緒に手作りのカレンダーを作ったり、ディスプレイも季節感を味わえる様こまめに変えている。</p>		
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>ホール内に椅子やソファがあり、仲の良い利用者様同士でくつろげるスペースを作っている。又、中庭にもベンチを設置し、天気の良い日には日光浴ができる様工夫している。</p>		
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室には写真や使い慣れた好みの物を置き、利用者様が居心地よく過ごせる様配慮している。</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>清掃時には必ず窓を開け、換気を行っている。又、ホールに温度計・湿度計を設置し、利用者様の様子を見ながら調節している。</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>85 身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>各居室の利用者様の状態に合わせて使える手すりや、利用者様の使いやすい高さの調理台等、自立を意識した工夫をしている。</p>		
<p>86 わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>ミーティング等で、利用者様がどのようにすれば混乱なく自分の力でやって頂けるかを話し合い、ケアを統一する様になっている。</p>		<p>今後も継続していきたい。</p>
<p>87 建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>駐車場内の花壇の横にベンチを設置し、利用者様がいつでも涼んだり日なたぼっこしたり出来る様工夫している。</p>		

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 利用者の2 / 3くらい 利用者の1 / 3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族 家族の2 / 3くらい 家族の1 / 3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

. サービスの成果に関する項目		
項目		取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

ホームでは利用者様が自信を持って生活していける様、その人の能力に合った役割を担って頂いています。行事等では家族にも参加して頂き、季節に合わせたレクリエーションや外出を計画しています。又、利用者様の家族や友人がホームに来ることが多いので、管理者や職員と気軽に話せる様な雰囲気作りにも力を入れています。